

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： 株式会社YMFG ZONEプランニング

上位関連計画にみる地域の将来
 ○地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに排出量46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
 ○第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減
 ○現在の人口：14,798人（令和2年国勢調査）、将来：11,402人（2030年）、7,095人（2045年）【日本の地域別将来推計人口（平成30年推計）】
 ○地域の総合計画に示された将来目標 現状：観光客数1,073,869人（令和元年）→目標：1,100,000人以上（令和12年）
 ○地域の環境分野の上位計画の将来目標：環境学習講座参加者数 183 人（令和元年度）→200 人（令和7年度）

②具体的な取組
 ●プラットフォーム参画者の拡大
 事業のタネに必要な事業者や団体について、地域内外問わず参画を呼び掛ける
 ●プラットフォーム参画者と連携した事業の実施
 「しまキャン△」をはじめとした山口県立周防大島高等学校発のプロジェクトについて、ステークホルダーに周知するとともに事業化に向けた連携について協議を行う

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	実績値 (2023年度末)	単位
環境	環境への関心増加	生徒考案のエコツアーの実施	0	1	—	回
	環境への関心増加	高校生向け地域循環共生圏の授業の実施	5	5	—	回
経済	事業化に向けた取組	クラウドファンディングの組成	0	1	—	回
	事業化に向けた取組	事業者と連携して実施した取組	0	1	—	回
社会	取組への関心増加	プラットフォーム参画者	24	30	—	団体
	取組への関心増加	周防大島高校の発表会参加者	24	30	—	団体
	取組への関心増加	メディア掲載回数	5	5	—	回

①ありたい未来
 テーマ：みんなで繋ぐ未来の環～周防大島の挑戦～
 ・周防大島町では、町内唯一の高等学校である山口県立周防大島高等学校が「島じゅうキャンパス」という考え方にに基づき、「島がすき、学校がすき、そこで生きてる人がすき」を合言葉に、豊かな自然に囲まれた周防大島や高校の魅力を発信する取組や、地域の方々と交流する取組を進めている
 ・周防大島町としてもニホンアワサングを始めとした地域の自然資源を活用した人の流れの創出に向けて、今後供用開始となるエコツーリズム拠点施設を核とした新たな取り組みの検討を進めていることを踏まえて、今後は、周防大島高校の生徒に地域循環共生圏の考え方や、資金調達（例：クラウドファンディング）を学ぶ授業の実施を進めることで、生徒の考案するプロジェクトの実現可能性や持続かの生を高めるとともに、周防大島高校の生徒が考案する様々なプロジェクトを応援する企業や団体によるプラットフォームを発展させ、周防大島町の経済・環境・社会の3側面から課題解決につながる事業が次々と生まれる地域を目指す。

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	環境への関心増加	キャンプ場利用客数	12,200	—	2025年度	12,900	人
	環境への関心増加	文化交流センター入館者数	3,943	—	2025年度	6,000	人
	環境への関心増加	体験型教育旅行受入者数	3,297	—	2025年度	3,300	人
経済	交流人口の拡大	観光客数	1,073,869	—	2025年度	1,100,000	人
	交流人口の拡大	宿泊者数	88,936	—	2025年度	90,000	人
	産業振興	新規の就業・雇用人数	15	—	2025年度	100	人
	産業振興	特産品のブランド化商品数	1	—	2025年度	5	品
社会	人口の社会増	若い世代の転入者数	72	—	2025年度	100	人
	人口の社会増	移住相談件数	411	—	2025年度	500	人
	人口の社会増	周防大島町へのUターン就職者数	—	—	2025年度	10	人
	人口の社会増	人口の社会減の緩和	-134	—	2025年度	-34	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

・環境面では、単なるエコツアーではなく、観光と掛け合わせた「しまキャン△」を実施することで、キャンプ場利用者数や文化交流センターの入館者数の拡大につなげるほか、体験型教育旅行としての展開も期待できる
 ・経済面では、高校生のプロジェクトを起点に、クラウドファンディングの組成や事業者と連携したプロジェクトの事業化を行うことで、新たな観光客層へのアプローチや産業の創出、商品開発につなげる
 ・なお、クラウドファンディングで集めた資金は実費との差額部分をニホンアワサングの保全活動に寄付することや、クラウドファンディングを通じて地域の環境保全に興味を持つ方々に周防大島町のエコツアーチケットをリターン商品として提供することで、観光客数や宿泊数の増加につなげ、経済と環境が循環する仕組みを構築する。
 ・社会面では、プラットフォームおよび周防大島高校の生徒の発表会に参加する企業や団体を増やし、生徒と対話する場を設けることで生徒が取組の意義や自身の可能性に気づきを与え、例え他の地域に一度出たとしても地域に戻ってきたいという意識を醸成することで、Uターン就職者や社会減の緩和につなげる。また、周防大島高校は地域未来留学の取組も行っていることから、他地域の若い世代の転入者の増加も期待できる